

2 指導の工夫・改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
リスニング (55.5%)	・平均正答率は、昨年度より下がり、2年前とほぼ同じ状況で、満足のいく状況ではない。英語の問いに対する基本的な受け答えの文法的知識はあるが、対話の内容理解が十分でないため、知識が生かされていない。また、英語の質問に自分自身のことを答える問題では、Yes/Noで答えることはできても、疑問詞で始まる質問に、的確な句または英文で答える際の語順の誤りなどが目立つ。	・授業の中で口頭によるQ & Aと英語の質問に対する答え方の基本的なルールの説明を多く取り入れる。また、長文や対話文を聞き取らせる前に、リスニングポイントを示して、逐語的な理解ではなく、概要や重要な情報を聞き取る力をつけさせたい。そのために、5W1Hを意識させたリスニング活動になるように配慮する。また、英問に対して自分自身のことを英語で答える活動も増やしていく。
読解問題 (65.4%)	・平均正答率は、昨年度より6%余り下がった。その中で、対話文の空所選択の問題では、短い定型文の知識が定着しつつあるので、短文であれば次に来る英文を予測できるようになってきた。しかし、長い英文の空所選択問題などで求められる基礎的・基本的な文法知識の定着が不十分である。また、基本的な語彙の知識も不足している。そのため、重要な情報を読み取れない傾向がある。	・会話文でよく使われる定型句の指導を続けていく。さらに、長文読解における「主語＋述語」の把握、指示代名詞が何を指しているかについての指導に力を入れて、長文の中で概要を理解し、分からない単語の意味を予測できる力をつけさせたい。そのためには、文法の知識を定着させることが重要なので、日常の授業の中適宜文法の整理を行いたい。そして、重要単語は単語テストを実施するなどして、確実に定着させたい。
文法・表現・英作文 (58.1%)	・平均正答率は、昨年度より下回ってしまった。特に、受動態やtell＋目的語＋不定詞のような一般的に難しいと考えられる文法項目を理解したり、それらを用いた英語の質問に自分自身のことについて答える問題で、的確に答えられる生徒が少ない。並べ替え英作文などでは、現在完了形などの特定の文法事項の運用力が不足している。しかし、対話文の空所選択問題では、短い対話であれば流れに沿った内容理解ができる。	・この領域で昨年度より平均正答率
領域名 (平均正答率)		